

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		文化芸術自主事業実行委員会支援事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局	課長名	上原哲也	
	施策	20	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	水野隆文	
	基本事業	67	学習・スポーツの啓発				所属班	生涯学習班	(内線)	1514	
予算科目		会計一般	款10	項5	目6	事業連番11517	法令根拠	成果優先度評価結果：⑩ コスト削減優先度評価結果：⑥			
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	自主事業実行委員会を組織し、年間の事業の企画立案・事業の実施を行う。平成7年11月に総合センターのオープンに伴い、文化会館の活用と文化芸術の振興を目的に自主事業が始まっている。平成7年11月から文化会館の活用と文化芸術の振興を目的に自主事業が始まり、実績は十分であるが、合併に伴う対象人口の増加、啓発手法の変化に伴い、合併初年度は来場者数減少の現象が見られた。また、ジャンルによって入場率にばらつきが見られる。
【業務の流れ】	自主事業実行委員会の組織、年2回程度の実行委員会会議の開催、企画・立案、事業の実施、会計監査、事業実績報告書の作成・検証。
【主な予算費目】	3 職員手当 19 負担金補助及び交付金
【意見や要望】	来場者のアンケート調査を集計してみると、大半が良かったという意見であるが、一部で新ジャンルの要望がある。入場者数が少なかったときにはアンケートで「広報・周知の徹底」の要望が強く見られる。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) 実行委員会を2回開催し自主事業を8回実施した。(映画・ドレミの広場・サイエンスショー・ミュージカル・コンサート・歴史資料展・人形劇・子ども劇団活動及び公演)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 実行委員会を3回程度実施し、自主事業を7回実施予定。(ドレミの広場・人形劇・ジョイントコンサート・ラジオ公開番組・コンサート・歴史資料展・子ども劇団活動及び公演(2回))
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 開催数	回	開催回数の減
⇒ イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
市民		⇒ ア 市内の人口
		⇒ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
市民が文化芸術活動に興味を持つ場を提供する。		⇒ ア 興味を持った人数(入場券購入者数)
		⇒ イ
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
市民が興味を持つような催しを開催できたかを判断するため。22年度の目標値は会館の客席8割を見込んだ値。		

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標		ア イ	回		8	8	7	7	7	7	7	
② 対象指標		ア イ	人		54,518	54,856	55,500	55,828	56,000	56,500	57,000	
③ 成果指標		ア イ	人		3,800	4,328	3,300	3,588	3,300	3,300	3,300	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	財源	千円									
		国庫支出金	千円									
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円		500	300		400				
		繰入金	千円									
	一般財源	千円		6,500	6,825	6,828	6,826	4,864	6,850	6,500		
	(A) 事業費計	千円		7,000	7,125	6,828	7,226	4,864	6,850	6,500		
		(A)のうち指定経費	千円		7,000	7,125	6,828	7,226	4,864	6,850	6,500	
		(A)のうち時間外、特勤	千円		0	325	328	326	364	340	340	
正規職員従事人数		人		7	6	7	7	7	7	7		
人件 費	延べ業務時間	時間		1,500	1,060	1,500	1,000	1,500	1,500	1,500		
	(B)人件費計	千円		6,000	4,218	5,970	4,120	6,180	6,180	6,180		
	トータルコスト(A)+(B)	千円		13,000	11,343	12,798	11,346	11,044	13,030	12,680		
												0

事務事業名	文化芸術自主事業実行委員会支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

※原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ジョイントコンサートや参加型の企画を計画し、出演者の関係者等に鑑賞が見込まれる。 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 広報周知の更なる努力を図り、集客の向上に努めなければならない。 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 補助事業等を活用し採択を目指す。また、買取公演だけではなく、地元で活動している団体を市の事業というスタイルで公演を実施することにより、事業数を減らさず、安価に事業を実施できる。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 技術管理委託により、高度な舞台技術操作と職員の勤務時間の軽減を図っている。前年度の実績を検証し、目的に沿った業務充実を実現する。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 実施計画についても、情報の収集により適正に進め、全市民を対象に啓発し、入場者の意見聴取した上で実施している。 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 催物の主催者として行政が実施しているもので、公演の内容や、出演者との交渉等については他団体に委託して行なっている。 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

22年度はプロ歌手とのジョイントコンサートやラジオ番組の公開収録など新たな試みを行い好評であった。今後も著名な文化人を招致し、市民の文化意識の高揚に勤める。また、他団体の補助事業の活用や、地元で活躍する団体を主とした公演など事業費をかけない事業の実施を今後も検討していく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

<